

## 専門学校及び大学の部

### 優良賞

#### 「Tropical Garden City OKINAWA」

沖縄国際大学 経済学部地域環境政策学科 4年次 佐久本 知年

みなさんは普段何気なく目にしている道路脇の街路樹や花々についてどのように感じているでしょうか。私は、これらにあまり良い印象はありません。街路樹の下には落ち葉がたまり、木の実が落ちた跡が歩道を黒く染めています。さらにはそばを見てみると、雑草が生い茂り、どの草木、花が植えられたもので、どれがそうでないものか、区別がつかない現状だからです。これらは、景観を悪化させ、観光客の満足度の低下、客数の減少につながる要因になりかねません。

私は一昨年、シンガポールへ約10ヵ月間、ワーキングホリデーへ行ってきました。シンガポールに着いてまず驚いたことが、「トロピカルガーデンシティ」と称される、緑あふれる街並みでした。国中の至るところに10メートルはあろうかという大きな木や、南国らしい色とりどりの花々が植えられており、初めて訪れる人々は一様にその緑の多さに驚き、そして賞賛します。世界有数の大都市にも関わらず、緑が多いおかげで窮屈感は全く感じず、むしろ清々しさを感じさせてくれました。きれいに並び青々と茂る街路樹、美しく手入れされた花々、まるで国全体が公園かと錯覚してしまいます。これが、「トロピカルガーデンシティ」という名で親しまれている所以なのです。

しかし、これらは一朝一夕で出来上がったものではありません。観光を重要な産業として位置づけ、年のブランド力を上げるため、国家戦略として、数十年の年月をかけて行われてきたものであり、世界各地から8000種類もの植物を集め、シンガポールの気候に合ったものを選びぬき、積極的に植え続けました。最初のころは、花を抜いて持ち帰る人もいたといいます。しかし、長い年月をかけ辛抱強く計画を進めていき、今のシンガポールの素晴らしい景観が出来上がりました。そのおかげもあってか、ご存知の通りシンガポールは、世界トップクラスの経済大国に発展し、観光客数も年々増加し、2012年の年間観光客数は日本が836万人なのに対して、1440万人を記録しています。現在でもその維持と管理には多忙な予算と労力が注がれており、今では国土の三三分の一が緑化されています。

一方、沖縄はどうでしょうか。沖縄県では、緑豊かな県土づくりを推進する「緑の美ら島づくり行動計画」のもと、さまざまな緑化事業を進めてきました。その結果、県の道路緑化率は54.7%で、全国平均の9.4%を大きく上回っています。しかし、これははたして実のある緑化といえるのでしょうか。私はその答えは「NO」だと思います。先にも述べとおり、きちんとした維持、管理ができていないのが現状です。数字の上ではいいように思えますが、これが景観の向上、観光客数の増加につながっているとは思えません。

工場地帯がなく、資源も乏しい沖縄県にとって観光は重要な産業であり、生命線ともいえます。沖縄にとって、シンガポールはこれからの沖縄を考える上で、政策モデルにするべき国であると思います。南国、沖縄のブランド力をより高めるためにも、ハイビスカスやヤシの木などの南国らしい植物、デイゴやガジュマルなどの沖縄独特の植物を増やし、しっかりと維持、管理に力を注いでいくべきです。そしてその結果、景観がよくなり、観光客の満足度、感動もより大きいものとなり、観光客の増加につながると思います。もしあなたが初めて沖縄に観光に訪れて、空港から市街地に向かう途中、さまざまな植物が出迎えてくれたら、訪れた観光地できれいな熱帯の花々が咲いていたら、どんなに素敵なことでしょう。きっとまたこの美しい島に来ようと思うはずです。

これらを実現するためには、県がもっと緑化政策に目を向け、その重要性を認識する必要があると思います。また、シンガポールでは、国が主体となって緑化政策が進められましたが、沖縄では、行政と住民が一体となって進めていくのもいいのではないのでしょうか。

自然との調和や、景観の保護が重要視されていくこれからの時代のニーズに合わせて、「新しい沖縄」、世界の人々に「Tropical Garden City OKINAWA」と言われるようにできれば、これからの沖縄の観光はさらに発展していくことでしょう。